

FAXの場合は、以下を、020-4622-8117にお送りください。

区市町村名: 墨田区 候補者のお名前: 牛山 れい子

候補者の皆様には、以下の公開質問に、お答えいただきたくお願い申し上げます。

質問1 東京都は区市町村別に直下地震の被害想定を公表しています。この東京直下地震が発生した場合、貴区市町村での被害及び対応はどのようになると思いますか。次の中から一つお選びください。

1. 大きな被害が出て、行政機関等では対応が困難だと思う
2. 大きな被害は出るが、行政機関等で対応できると思う
3. それほど大きな被害は出ないと思う。
- ④ その他 (墨田区など江東デルタ地域は、地盤の地表部が沖積層(有楽所層)のため大きな被害が出ると思う。区として先進的ないろいろな取り組みをしているが、東京都・国との一体的な対応が必要だと思う。

質問2 「耐震補強」について

耐震補強を推進するため、耐震診断や耐震補強工事への助成をしている自治体もありますが、その数はまだ多くありません。私たちは、できるだけ多くの自治体が助成制度を採用されることを希望します。

また、助成制度はあっても、あまり活用されていない現状もあります。その大きな理由は、建築基準法が求める耐震強度(耐震診断の評点1.0以上)を確保する場合には、かなりの耐震補強工事費が必要になるからです。そこで、建築基準法が求める耐震強度に達しなくても、たとえ震が壊れたとしても、生存空間が確保できる「簡易耐震補強」でも良いのではないかとという考え方があり、墨田区をはじめいくつかの自治体で助成制度も実現しています。

また、低所得者については、一部助成では耐震補強が進まないことから、周囲への影響を考慮金額公費でも耐震補強をすべきだとの考えもあります。

問2-1 「建築基準法に適合する耐震補強」への助成の必要性について、あなたはどのように考えますか。次の中から一つお選びください。

1. 全額自己資金で工事を行うべきで、公費で助成すべきではない。
2. 上限を設けたうえで、一部助成(例えば工事費の50%)を実施すべき。
- ③ その他 (木造住宅の耐震改修助成を墨田区は2006年1月から開始した。) 2006年度は、耐震診断助成29件、改修助成14件、広範囲の今後の促進が必要。

問2-2 「簡易耐震補強」への助成の必要性について、あなたはどのように考えますか。次の中から一つお選びください。

1. 全額自己資金で工事を行うべきで、公費で助成すべきではない。
2. 上限を設けたうえで、一部助成(例えば工事費の50%)を実施すべき。
- ③ その他 (中央防災会議の被害想定でも死者の半数は高齢者、(心身障害)者などの災害弱者となっている。しかも所得の低い世帯が多い。簡易改修の条件緩和、助成の拡充、予算の増額などに取り組む必要を痛感している。

問2-3 「低所得者には全額公費助成をすべきだ」との意見について、あなたはどのように考えますか。次の中から一つお選びください。

1. 全額公費助成はすべきではない。
2. 「建築基準法に適合する耐震補強」について、一定の限度額を設けたうえで全額公費助成をすべき。
3. 「簡易耐震補強」について、一定の限度額を設けたうえで全額公費助成をすべき。
4. 全額公費助成ではなく、一部を助成し、残りを貸付けで対応すべき。
- ⑤ その他 (墨田区は、独り暮らしの高齢者等について助成の補助率を3分の2にし、
修繕資金の利息補助を行っているが さらに拡充すべきと思う。)

問2-4 あなたは、「耐震補強」を区民や市民に普及啓発するため、どのように取り組みますか。次の中から一つお選びください。

1. 助成制度を、広報紙等で普及啓発していく。
2. 広報紙等に加え、耐震補強に関する相談会などを全域で実施し、普及啓発を進める。
- ③ 広報紙等に加え、耐震補強に関する相談会などを全域で実施するとともに、昭和56年以前に築造された建物の持ち主全員に耐震診断、耐震補強工事を促すお知らせを出して普及啓発を進める。
4. その他 ()

質問3 「耐震補強推進協議会の設置」について

地域住民が安心して耐震補強工事を進めるには、信用できる技術で、信用できる工務店が工事を行うことが重要です。そのためには、各区や市ごとに、地域で仕事をしている優秀な建築士や高い技術を持った工務店などを組織化し、地域ぐるみで耐震補強を推進するための「耐震補強推進協議会」を、行政との協働で設置し、相談から費用に合わせた工事までを一貫して行う取り組みが考えられます。

このことについて、あなたはどのように考えますか。

1. 行政が関与してそのような協議会を設立する必要はないと思う。
2. 必要はあると思うが、現実的には、協議会の設立は困難だと思う。
3. 耐震補強推進協議会を設置したい。
- ④ その他 (町会、自治会、建築士、施主等による耐震補強推進協議会)
を2006年6月に設置し取り組んでいる。

質問4 賃貸住宅などの「耐震性の表示」について

多くの若者や高齢者は、家賃などが安い耐震性に欠ける古い住宅や木造アパートに住んでいます。阪神・淡路大震災では、こうした建物が倒壊して高齢者や学生が多数亡くなりました。これは、賃貸住宅や中古の建物の広告に「耐震性の表示」がないことが大きく影響していると考えます。

あなたは、行政の施策として、賃貸住宅や中古の建物について、賃貸契約時や購入契約時に「耐震性の公表」を義務づけることについて、どのように考えますか。次の中から一つ選んで

ください。

1. 「築年」は公表されるので、それで判断すればいいから、現状で十分。
2. 昭和 56 年以前に建てられた建物について、「耐震性」が問題となるが、低所得者の住宅確保などに大きな影響を与えるので、耐震性の公表は困難と考える。
3. 条例などによって、昭和 56 年以前に建てられた建物に限り「耐震性の公表」を行う制度を設ける。
4. 条例などによって、すべての建物について、「築年」、「耐震補強の有無」の公表を義務づける。
- ⑤ その他 (墨田区は、オーナーが自らやるべきとの方針で対応しているが、区民や専門家等の意見や知恵を集めて検討していきたい。)

質問 8. その他、震災対策に関するお考えについて

(800 字程度以内でお書きください)

墨田区は 1923 年の関東大震災で人命、財産等大きな被害をこうむった地区です。

美濃郡等新都政のとき、白いげ東地区防災対策の建設にとりくむなど震災対策に画期的取り組みがすすみました。大地震の発生予測、とくに直下型についてはその知見が乏しいから「備えあれば憂いなし」ではありませんが平時からの震災対策をハード面、ソフト面含めて区政のとりにくむべき最重要施策の一つに位置付けていきます。